

触媒学会創立60周年記念式典 挨拶

文部科学省・研究開発局・環境エネルギー課長
横地洋

文部科学省・研究開発局・環境エネルギー課長の横地洋と申します。このたび、触媒学会が、創立60周年という節目の記念すべき年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。

記念式典の開会に当たり、大変僭越ではございますが、一言、挨拶を申し上げます。

私たちの身の回りにある生活用品の多くは、触媒反応を利用して作られています。今日の、そしてこれからの豊かな社会を創り上げる原動力。これが、触媒に関する絶え間ない研究開発と、その成果の利活用であったことは確かです。

1958年の学会の創立から60年にわたる学会員のお一人お一人による開かれた活動が、この分野の研究や技術の発展、産学官の連携と関連産業の発展、人材の育成、国際交流などを着実に実現してこられました。このことに、改めて敬意を表します。

触媒は、課題解決型のアプローチが可能な研究分野であり、現在及び将来のさまざまな課題を解決できる力があります。私たちの日常生活を直接、豊かにするのみならず、環境分野や資源・エネルギー分野などにおいても重要な役割を果たすことが期待されています。

私どもといたしましても、さまざまな分野における課題解決につながるイノベーションを創出できる触媒の研究と利活用に期待を寄せており、産学官が一体となった研究開発を支援してきているところです。

明日まで、ここパシフィコ横浜において、触媒学会の主催で、「東京国際触媒コンファレンス (TOCAT 8)」が開催されています。世界中から1,000名を超える研究者・関係者が集う大変な盛況であると伺っております。準備に当たられた方は大変ご苦労されたと思いますが、触媒科学の可能性に大きな期待が寄せられていることを改めて実感いたします。

触媒学会が、これまでの60年にわたる実績の上で、活動をさらに発展させ、ますます多様化・深化していくであろうこの分野で、引き続き世界を力強く牽引する学会であり続けることを信じてやみません。

また、学会を核とした科学や産業に関連する最先端の取組が、私たちの社会の未来を切り拓く重要な役割を担い続けることに、大いに期待いたします。

最後になりますが、改めまして、長い歴史を誇る伝統ある触媒学会が、このたび60周年という節目の記念すべき年を迎えられたことに、心より敬意を表します。触媒学会の今後の活動が大きく発展し続けることを祈念いたしますとともに、ご列席の皆様のみますますのご健勝と、更なるご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。